Research Report of the Research Institute of Industrial Safety, RIIS-RR-86, 1986. UDC 662.612:661.73:541.126.2

# 有機化合物の発火温度の体系化についての研究(第2報)

# 柳 生 昭 三\*

# Systematization of Spontaneous Ignition Temperatures of Organic Compounds (2 nd Report)

-Spontaneous Ignition Temperatures of Alkyl Esters and Alkyl Acids-

by Shôzô YAGYÛ\*

*Abstract* ; Ignition temperatures of combustible substances have ever been determined mainly by experiments. However, only a limited number of substances has been considered in this connection in the past, among a wide variety of combustible substances. Therefore, still more sufficient number of data should be accumulated from the practical safety engineering point of view.

The author has intended since some years ago to systematize ignition temperatures of combustible substances, mainly organic compounds, in order to estimate the ignition temperature of a compound without actual experiments on the bench. For this aim, it may be necessary in the first place to investigate the relation between ignition temperatures and molecular structures of various organic compounds.

M.G.Zabetakis<sup>1)</sup> reported a relationship between the ignition temperature and average carbon chain length for the paraffin hydrocarbon homologues.

In the previous report<sup>4)</sup>, the application and improvement of his method to alkyl alcohol homologues was described. In this report, the method is applied to the alkyl esters and alkyl acids. As the result, similar correlations to those of the alcohols and hydrocarbons are given, as shown in Figs.11 to 13 which show that the relation between the spontaneous ignition temperature and average carbon chain length (index-number) is plotted on a reverse-S pattern curve. The estimation of the spontaneous ignition temperatures of the alkyl esters and acids would now be possible with aids of those figures.

Keywords ; Spontaneous ignition temperature, Alkyl acids, Alkyl esters.

# 1. 緒 言

発火温度は物質の発火に対する難易の程度を温度の 尺度で表わす数値で、物質それ自身の発火危険防止に 用いられるだけでなく、物質の危険性の分類や比較な どにもしばしば利用され、安全上重要な数値である。 しかし、可燃性物質全般については、その種類の多さ に較べて実測値が知られている物質は比較的僅かであ -122 -

り,また適切な予測方法もないので,現状では未測定 物質に対するその予知は一般に困難である。しかも, 発火温度は測定法の相違による影響が大きいので,実 測値を比較する場合でも,同じ測定法によるものでな ければ比較の意味が薄いという性格がある。

このような現状を考えれば、個々の物質の発火温度 データを実測により追加してゆくことも必要ではある が、それよりも可燃性物質の主体である有機化合物全 般の発火温度の体系化をはかることの方が急務である と考える。この目的をいくらかでも果すために、著者 はまず基礎的物質の発火温度を同一方法で系統的に実 測し、ここに得られたデータを利用して、物質の種類 別あるいは分子構造別に発火温度との関連性を追求す ることを試みた。このような研究の結果として、発火 温度が物質の一般的特性値とグラフ上に関係づけられ たり,あるいはなんらかの経験的法則が見出されれば, 未測定の多くの物質に対する発火温度の予知が容易に なると思う。また,発火温度の正確な予知は困難で, 最終的には実測に頼るとしても,ある程度の予測手段 があれば実測の手間をかなり省くことができる。さら に,発火温度が実験条件に大きく影響を受けるものだ とすれば、得られた測定値の妥当性をなんらかの方法 でチェックしたいという希望も生ずる。実験誤差が比 較的大きく作用する物性データの測定値は、測定後に 既存の法則にもとづく適応性の検定を行なうことが現 今では常識になっている(たとえば気液平衡データな ど)。これらの目的のためにも、発火温度に関連する経 験的法則を見出すことが早急に望まれるわけである。

しかし、この分野における研究は従来きわめて少な く,著名なものは僅かに Zabetakis ら<sup>10</sup>のものがある程 度であった。

もともと発火温度は他の物性との関連に乏しいとさ れ,たとえば物質の物理恒数的数値と発火温度を関係 づけた例は見当らない。ただ,炭化水素の同族体につ いては,炭素数と発火温度の関係が種々検討されてい る<sup>2)</sup>。この場合,直鎖のパラフィンやオレフィン類だけ を最低発火温度と炭素数の両軸でプロットすると,あ る一定の曲線上に乗るが,側鎖のあるものはこの曲線 から大きく外れる。そこで,Zabetakis ら<sup>11</sup>は直鎖パラ フィンと側鎖のあるパラフィンが同一尺度で扱えるよ うにするために,炭素数の代りに平均炭素鎖長という 考え方を導入した。Fig.1にこの関係を示す。ここで平 均炭素鎖長Lは,*i*個の炭素原子をもつ炭素鎖の数を  $g_i, メチル基(炭素鎖末端の炭素原子)の数を<math>M(M \ge 2)$ 





とすれば、次式で与えられる数値である。

の関係

$$L = \frac{2\sum_{i=2}^{\infty} i \cdot g_i}{M(M-1)} \tag{1}$$

Fig.1で分るように,直鎖パラフィンでは炭素数の増加につれて最低発火温度が急激に低下し,炭素数9付近でほぼ一定になり,曲線全体としては逆S字状を示している。側鎖のあるパラフィンは同一炭素数の直鎖パラフィンより発火温度が一般にかなり高くなる。 Zabetakisらはこの考え方をパラフィン系炭化水素だけでなく,側鎖をもつ芳香族炭化水素にも適用して,パラフィン類と類似の関係があることを示している<sup>3</sup>。

著者は Fig.1 に見られるような関係が,少なくとも 鎖式化合物ではパラフィン類以外のアルコール類,エ ステル類などの他の同族体間でも成立するであろうと 考えた。そこで,まず鎖式飽和1価アルコールの同族 体について検討した結果,アルコール類の分子構造を アルキル基の平均炭素鎖長で表わすことにより,Fig. 1の関係と類似の逆S字状曲線で示されることを明らか にした<sup>4</sup>。

今回は同族体に鎖式飽和1価のエステルと酸を選び, 実測でえた発火温度と分子構造の関係を検討したので, ここに報告する。

## 2. 実験方法

発火温度の測定装置および測定方法は著者の他の報 告<sup>5</sup>に詳述してあるので、ここでは測定法を簡単に述べ るにとどめる。

電気炉中で一定温度に加熱した 200 ml のテレックス ガラス製三角フラスコ中に一定量の試料を注入して, 発火の有無を観察し,発火する場合には発火おくれ時 間を計測する。炉の温度を変化させてこの操作を繰り 返し,ある一定の試料量における発火の有無の限界温 度を求める。つぎに試料量を変えて同様に行ない,試 料量と発火限界温度の関係を求めてグラフ上に記録す る。このうちの最低の限界温度をその試料の最低発火 温度と定める。つぎに,この最低発火温度を与える試 料量により,温度と発火おくれ時間の関係を求めてグ ラフ上に記録する。

試料は市販の特級または1級試薬をそのまま使用した。

#### 3. 実験結果

72種のエステルおよび17種の酸について、実測で得られた試料量-発火限界温度線図、および温度-発火お くれ時間線図から、最低発火温度とその時の試料量お よび発火おくれ時間、おくれ時間2secの温度、および 瞬間発火温度を読みとり、これらの結果をまとめて、 エステル類について Table 1 に、酸類について Table 2 に示した。なお、個々の物質の測定における詳しいデ ータは、著者による他の報告\*を参照されたい。これら の表中には、後の検討で必要なため、試料物質の分子 構造、アルキル基の平均炭素鎖長、分子構造を表わす 指数などの数値も同時に記入した。

#### 4. 分子構造と発火温度の関係の考察

# 4.1 分子構造の数値化

分子構造と発火温度の関係を定量的にしらべるため には、まず分子構造をなんらかの方法で数値化しなけ ればならない。はじめにエステル類について考えてみ ると、鎖式飽和1価エステルは R-COO-R'(Rおよび R'はアルキル基)の構造を持つが、COO基は共通であ るから、その同族体間の性状の違いはRおよび R'の2 個のアルキル基の構造の違いに原因する。そこで、こ れらのアルキル基の構造を表わすのに、さきの鎖式飽 和1価アルコール類で行なったのと同様に<sup>4)</sup>, Zabetakis らの提案による平均炭素鎖長を用いることにした。こ の場合, アルキル基の結合する COO 基を, 単純化のた めに水素原子とみなせば, 炭化水素と同じ扱いができ る。例えば, 2-エチルブチル基は

$$\left[ c - c \left< \begin{array}{c} c - c \\ c - c \end{array} \right]$$

であるから、その平均炭素鎖長はさきの(1)式より

$$L = \frac{2(4 \times 2 + 5)}{3(3 - 1)} = 4.3$$

となる。このようにして R および R' の平均炭素鎖長の 値 L および L' を計算し、これらの 2 個の数値でエステ ル類および酸類の分子構造を代表させた。結果は Table 1 および Table 2 中に示してある。ただ、H-COO-R' の構造を持つギ酸エステルの系列はアルキル基が 1 個 のため、L=0 となる。一方において、R-COOH の構 造を持つ酸の系列もアルキル基は 1 個で、L'=0 となる。

表中の L および L' の値を見れば分るように,直鎖の アルキル基では炭素数と平均炭素鎖長の値は同一であ るが,側鎖のあるアルキル基では炭素数より平均炭素 鎖長が小さくなり,しかも小数点以下に端数がつく場 合がある。

#### 4.2 R'の平均炭素鎖(L')の増大の影響

最初に、R'の構造の変化に伴なう発火温度の変動を 知るために、R'には炭素数 1~10 の物質、すなわちメ チル基からデシル基までを、また R には炭素数の比較 的少ない 0~2 の物質、すなわちギ酸、酢酸およびプロ ピオン酸のエステルを選び、それらを組合せた計 34 種 のエステル (Table 1 中の資料番号 1~34) について、 R'の平均炭素鎖長 L'と発火温度の関係を検討した。

ここでは、R の平均炭素鎖長 L の変化は 0~2 の範囲 で比較的小さいので、とりあえずはその変動を無視し、 R'の平均炭素鎖長 L'のみでエステルの分子構造を表わ すものとして、L'と発火温度の関係をグラフにプロッ トし、その結果を Fig.2、Fig.3 および Fig.4 に示した。 発火温度としては最低発火温度、おくれ時間 2 sec の温

<sup>\*</sup> 柳生: "発火温度データ(第1集)"産業安全研究所技術 試料, RIIS-TN-75-3 (1975) 中の測定物質番号33 ~66;柳生: "発火温度データ(第2集)"産業安全研究 所技術資料, RIIS-TN-75-7 (1976) 中の測定物質番号 101~155

# -124 -

# 産業安全研究所研究報告 RIIS-RR-86

# Table 1 A summary of ignition temperatures of esters エステル類の発火温度の測定結果一覧

			No. of	No. of	Average	Average	Index	Minimum ignition temperature			Temp. of	Momentary
No. of Sample	Ester	Molecular structure (R-COO-R')	carbon atoms of R	carbon atoms of R'	chain length of R (L)	chain length of R' (L')	for showing molecular structure	Temp. (℃)	Sample quantity (ml)	Time lag (sec)	2 sec time lag (°C)	ignition temp. (°C)
1	Methyl formate	соо-с	0	1	0	1.0	1.0	450	0.275	11	520	575
2	Ethyl formate	COO-C-C	0	2	0	2.0	2.0	435	0.2	24	535	585
- 3	n-Propyl formete	COO-C-C-C	0	3	0	3.0	3.0	435	0.15	16	530	575
4	iso-Propyl formate	СОО-С-С С	0	3	0	3.0	3.0	440	0.2	50	575	630
5	n-Butyl formate	COO-C-C-C-C	0	4	0	4.0	4.0	285	0.1	22	370	425
6	iso-Butyl formate	соо-с-с-с с	0	4	0	3.0	3.0	425	0.1	9	500	560
7	n-Amyl formate	COO-C-C-C-C-C	0	5	0	5.0	5.0	265	0.1	23	355	415
8	iso-Amyl formate	соо-с-с-с-с с	0	5	0	3.7	3.7	320	0.1	8	420	505
9	n-Hexyl formate	COO-C-(C)4-C	0	6	0	6.0	6.0	250	0.1	34	325	370
10	Methyl acetate	С-СОО-С	1	1	1.0	1.0	1.0	475	0.175	13	575	630
11	Ethyl acetate	C-COO-C-C	1	2	1.0	2.0	2.0	455	0.125	15	560	610
12	n-Propyl acetate	C-COO-C-C-C	1	3	1.0	3.0	3.0	435	0.1	7	520	600
13	iso-Propyl acetate	с-соо-с-с с	1	3	1.0	3.0	3.0	425	0.1	22	600	660
14	n-Butyl acetate	С-СОО-С-С-С-С	1	4	1.0	4.0	4.0	380	0.1	2.3	395 į	500
15	iso-Butyl acetate	С-СОО-С-С-С С	1	4	1.0	3.0	3.0	420	0.1	4	495	590
16	sec-Butyl acetate	с-соо-с-с-с с	1	4	1.0	4.0	4.0	410	0.1	12	530	600
17	tert-Butyl acetate	С-соо-с-с с	1	4	1.0	3.0	3.0	435	0.15	50	610	660
18	n-Amyl acetate	C-COO-C-(C)3-C	1	5	1.0	5.0	5.0	290	0.1	3.2	325	390

Table 1 (続き-1)

			No. of	No. of	Average	Average	Inbex	Min	imum ign emperatur	ition e	Temp. of	Momentary ignition temp. (°C)
No. of Sample	Ester	Molecular structure (R-COO-R')	carbon atoms of R	carbon atoms of R'	carbon chain length of R (L)	carbon chain length of R' (L')	number for showing molecular structure	Temp. (℃)	Sample quantity (ml)	Time lag (sec)	2 sec time lag (°C)	
19	iso-Amyl acetate	с-соо-с-с-с-с с	1	5	1.0	3.7	3.7	370	0.1	4.3	450	545
20	sec-Amyl acetatė	C-COO-C-C-C-C C	1	5	1.0	5.0	5.0	390	0.1	4.0	455	540
21	tert-Amyl acetate	С-СОО-С-С-С С	1	5	1.0	3.7	3.7	410	0.1	10	510	570
22	n-Hexyl acetate	C-COO-C-(C)4-C	1	6	1.0	6.0	6.0	255	0.075	9	310	370
23	2-Ethylhexyl acetate	C-COO-C-C-C-C C C	1	6	1.0	4.3	4.3	285	0.075	5	350	430
24	n-Octyl acetate	C-COO-C-(C)6-C	1	8	1.0	8.0	8.0	220	0.1	28	275	305
25	2-Ethylbutyl acetate	C-COO-C-C-(C)3-C C C	1	8	1.0	5.7	5.7	230	0.075	10	275	330
26	n-Decyl acetate	C-COO-C-(C)8-C	1	10	1.0	10.0	10.0	215	0.1	40	265	295
27	Methyl propionate	С-С-СОО-С	2	1	2.0	1.0	2.0	455	0.15	50	555	600
28	Ethyl propionate	C-C-COO-C-C	2	2	2.0	2.0	2.0	445	0.125	32	560	600
29	n-Propyl propionate	С-С-СОО-С-С-С	2	3	2.0	3.0	3.0	430	0.125	20	540	580
30	iso-Propyl propionate	C-C-COO-C-C C	2	3	2.0	3.0	3.0	425	0.125	21	575	630
31	n-Butyl propionate	C-C-COO-C-(C)2-C	2	4	2.0	4.0	4.0	385	0.15	2.5	420	570
32	iso-Butyl propionate	C-C-C00-C-C-C c	2	4	2.0	3.0	3.0	435	0.125	16	535	580
33	iso-Amyl propionate	C-C-COO-C-C-C-C C	2	5	2.0	3.7	3.7	395	0.15	3.4	470	560
34	n-Hexyl propionate	C-C-COO-C-(C)4-C	2	6	2.0	6.0	6.0	260	0.075	7	325	400
35	Methyl n-butyrate	C-C-C-C0O-C	3	1	3.0	1.0	3.0	455	0.125	24	550	600
36	Ethyl n-butyrate	С-С-С-СОО-С-С	3	2	3.0	2.0	3.0	440	0.1	15	545	600
37	n-Propyl n-butyrate	С-С-С-СОО-С-С-С	3	3	3.0	3.0	3.0	420	0.1	9	525	585
38	iso-Propyl n-butyrate	C-C-C-C00-C-C C	3	3	3.0	3.0	3.0	435	0.1	12	550	605

-125 -

			Nf	No. of	Average	Average	Index	Minimum ignition temperature			Temp of	Momentary
No. of Sample	Ester	Molecular structure (R-COO-R')	No. of carbon atoms of R	No. of carbon atoms of R'	carbon chàin length of R (L)	carbon chain length of R' (L')	number for showing molecular structure	Temp.	Sample quantity (ml)	e Time lag (sec)	Temp. of 2 sec time lag (℃)	Momentary ignition temp. (°C)
39	n-Butyl n-butyrate	C-C-C-COO-C-(C)2-C	3	4	3.0	4.0	4.0	350	0.15	3.0	400	525
40	iso-Amyl n-butyrate		3	5	3.0	3.7	3.7	335	0.1	4.0	410	520
41	n-Hexyl n-butyrate	C-C-C-C00-C-(C)4-C	3	6	3.0	6.0	6.0	255	0.075	16	320	380
42	n-Octyl n-butyrate	С-С-С-СОО-С-(С)6-С	3	8	3.0	8.0	8.0	230	0.1	55	290	320
43	Methyl iso-butyrate	C-C-C00-C C	3	1	3.0	1.0	3.0	450	0.15	30	540	585
44	Ethyl iso-butyrate	C-C-C00-C-C c	3	2	3.0	2.0	3.0	440	0.125	25	545	590
45	iso-Propyl iso-butyrate	C-C-C00-C-C C C	3	3	3.0	3.0	3.0	465	0.075	16	540	590
46	iso-Amyl iso-butyrate	c-c-coo-c-c-c-c c c	3	5	3.0	3.7	3.7	390	0.15	3.0	435	540
47	Methyl n-valerate	C-(C)2-C-COO-C	4	1	4.0	1.0	4.0	420	0.1	10	525	575
48	Ethyl n-valerate	C-(C)2-C-COO-C-C	4	2	4.0	2.0	4.0	395	0.1	2.8	425	535
49	n-Propyl n-valerate	C-(C)2-C-COO-C-C-C	4	3	4.0	3.0	4.0	370	0.1	2.4	390	485
50	Ethyl iso-valerate	c-c-c-coo-c-c c	4	2	3.0	2.0	3.0	420	0.1	6	515	590
51	iso-Amyl iso-valerate	c-c-c-coo-c-c-c-c c c	4	5	3.0	3.7	3.7	310	0.075	8	400	500
52	n-Octyl iso-valerate	C-C-C-COO-C-(C)6-C C	4	8	3.0	8.0	8.0	235	0.1	95	305	335
53	Methyl n-Caprate	C-(C)4-COO-C	5	1	5.0	1.0	5.0	255	0.075	28	390	480
54	Ethyl n-Caprate	C-(C)4-COO-C-C	5	2	5.0	2.0	5.0	255	0.075	8	320	400
55	n-Butyl n-Caprate	C-(C)4-COO-C-(C)2-C	5	4	5.0	4.0	5.0	240	0.075	25	295	-345
56	Methyl n-heptanoate	C-(C)5-COO-C	6	1	6.0	1.0	6.0	245	0.075	40	325	375
57	Ethyl n-heptanoate	C-(C)5-COO-C-C	6	2	6.0	2.0	6.0	250	0.05	6	290	340
58	Ethyl n-Caprylate	C-(C)6-COO-C-C	7	2	7.0	2.0	7.0	235	0.075	9	275	315

-127-

# Table 1 (続き-3)

	Ester	Molecular structure (R-COO-R')	No. of	No. of	Average carbon bon chain ms length R' of R (L)	Average carbon chain length of R' (L')	Index number for showing molecular structure	Minimum ignition temperature			Temp. of	Momentary
No. of Sample			carbon atoms of R	carbon atoms of R'				Temp. (℃)	Sample quantity (ml)	Time lag (sec)	2 sec time lag (°C)	ignition temp. (℃)
59	n-Butyl n-Caprylate	C-(C)6-COO-C-(C)2-C	7	4	7.0	4.0	7.0	230	0.125	26	280	310
60	iso-Butyl n-Caprylate	C-(C)6-COO-C-C-C C	7	4	7.0	3.0	7.0	240	0.075	30	300	330
61	Ethyl n-Caprate	C-(C)8-COO-C-C	9	2	9.0	2.0	9.0	220	0.075	31	270	295
62	n-Butyl n-Caprate	C-(C)8-COO-C-(C)2-C	9	4	9.0	4.0	9.0	225	0.125	47	270	290
63	n-Decyl n-Caprate	C-(C)8-COO-C-(C)8-C	9	10	9.0	10.0	10.0	240	0.1	13	265	285
64	Ethyl laurate	C-(C)10-COO-C-C	11	2	11.0	2.0	11.0	220	0.125	33	265	290
65	n-Butyl laurate	С-(С)ю-СОО-С-(С)г-С	11	4	11.0	4.0	11.0	225	0.125	48	270	295
66	iso-Amyl laurate	C-(C)10-COO-C-C-C-C C	11	5	11.0	3.7	11.0	230	0.125	45	280	300
67	Methyl myristate	C-(C)12-COO-C	13	1	13.0	1.0	13.0	225	0.125	90	275	300
68	Ethyl myristate	C-(C)12-COO-C-C	13	2	13.0	2.0	13.0	220	0.15	25	260	285
69	Methyl palmitate	C-(C)14-COO-C	15	1	15.0	1.0	15.0	225	0.3	95	275	295
70	Ethyl palmitate	C-(C)14-COO-C-C	15	2	15.0	2.0	15.0	230	0.3	23	260	280
71	Ethyl stearate	C-(C)16-COO-C-C	17	2	17.0	2.0	17.0	230	0.25	45	265	285
72	n-Butyl stearate	C-(C)16-COO-C-(C)2-C	17	4	17.0	4.0	17.0	240	0.35	55	265	285

# 産業安全研究所研究報告 RIIS-RR-86

			No. of	Average	Index	Min	imum ign emperatur	ition e	Temp. of	Momentary
No. of Sample	Acid	Molecular structure (R-COO-H)	carbon atoms of R	carbon chain length of R (L)	number for showing molecular structure	Temp. (℃)	Sample quantity (ml)	Time lag (sec)	2 sec time lag (°C)	ignition temp. (°C)
1	Formic acid	COO	0	0	0	510	0.2	3.0	545	605
2	Acetic acid	C-COO	1	1.0	1.0	480	0.175	11	570	620
3	Propionic acid	C-C-COO	2	2.0	2.0	440	0.15	36	545	585
4	n-Butyric acid	C-C-C-C00	3	3.0	3.0	445	0.125	32	545	590
5	iso-Butyric acid	c-c-coo c	3	3.0	3.0	.460	0.125	17	535	580
6	n-Valeric acid	C-C-C-C-C00	4	4.0	4.0	390	0.125	20	510	570
7	iso-Valeric acid	C-C-C-COO C	4	3.0	3.0	425	0.1	28	530	570
8	Pivalic acid	с-с-соо с	4	3.0	3.0	450	0.1	75	550	590
9	n-Capronic acid	C-C-C-C-C-C00	5	5.0	5.0	330	0.075	5	415	520
10	2-Ethyl butyric acid	C-C-Ç-COO Ç C	5	5.0	5.0	390	0.075	9	510	560
11	n-Heptanoic acid	C-(C)5 -COO	6	6.0	6.0	275	0.075	11	350	<b>405</b>
12	n-Caprylic acid	C-(C)6 -COO	7	7.0	7.0	245	0.1	28	315	360
13	n-Capric acid	C-(C)8 -COO	9	9.0	9.0	230	0.175	54	295	330
14	Lauric acid	C-(C)10-COO	11	11.0	11.0	230	0.15g	60	285	315
15	Myristic acid	C-(C)12-COO	13	13.0	13.0	235	0.2g	45	280	315
16	Palmitic acid	C-(C)14-COO	15	15.0	15.0	240	0.2g	16	285	320
17	Stearic acid	C-(C)16-COO	17	17.0	17.0	245	0.2g	55	275	320

# Table 2 A summsry of ignition temperatures of acids 酸類の発火温度の測定結果一覧

- 128 -







Fig.3 Relation between L' of esters of lower acids and their ignition temperatures of 2 sec time lag. 低級酸エステルのL' と発火おくれ時間 2 sec の温度の 関係

度,および瞬間発火温度の3種を用いた。

これらの図に見られるように、ギ酸、酢酸およびプ ロピオン酸のいずれの系列のエステルも L' と発火温度 の間には、既に知られている鎖式飽和の炭化水素類お よびアルコール類の場合とほぼ類似した逆 S 字曲線で



Fig.4 Relation between L' of esters of lower acids and their momentary ignition temperatures. 低級酸エステルのL' と瞬間発火温度の関係

示される関係が認められる。さらに,このような関係 は最低発火温度だけでなく,同一の発火おくれ時間を 示す他の温度にも適応することが分る。

つぎに, L の値が 0~2 の範囲内では, その変化にも かかわらず, 発火温度はほぼ L'のみによって決定され ることが同じ図から分る。このことから, このような エステル類の発火温度を決める因子は, R か R'のいず れか一方の影響が強く, その平均炭素鎖長の値の大き い方が支配的作用を持つであろうことが推察される。 そこで次に, L の値が更に大きくなった場合, すなわ ち酪酸以上の高級酸エステルについて検討してみよう。

### 4.3 Rの平均炭素鎖長(L)の増大の影響

これまでの検討によって、一般に鎖式飽和化合物の 同族体間では、炭化水素もアルコールもエステルも共 に、アルキル基の平均炭素鎖長の増大につれて発火温 度の低下することが明瞭になった。

ところで,エステルの場合には分子中に R と R' の 2 個のアルキル基が存在するので,そのどちらが発火温 度に大きい影響を及ぼすかが問題となる。これについ ては,既に前節である程度推察したように,平均炭素 鎖長の大きい方のアルキル基の影響が強いであろうと 考えられたので,少数の試料によって予備的検討を行



Fig.5 Relation between index-number of esters of higher acids and their minimum ignition temperatures. 高級酸エステルの指数と最低発火温度の関係(38物 質)



Fig.6 Relation between index-number of esters of higher acids and their ignition temperatures of 2 sec time lag. 高級酸エステルの指数と発火おくれ時間 2 sec の温度

高級酸エステルの指数と発火おくれ時間2 Sec の温度の関係

った結果,この事実がほぼ確認された。すなわち,2 個のアルキル基のうち平均炭素鎖長の大きい方が支配 的影響を持つのである。その理由としては,エステル の高温下における分解,酸化の過程で,まず

の部分が CO または CO<sub>2</sub> として分断されて R と R' が 遊離し,そのうちの低温度で発火しやすい方,すなわ ち平均炭素鎖長の大きい方が支配的に作用するものと 考えられる。



Fig.7 Relation between index-number of esters of higher acids and their momentary ignition temperatures. 高級酸エステルの指数と瞬間発火温度の関係

従って、以下の酪酸からステアリン酸に至る高級酸 のエステル(Table1中の試料番号35~72)の検討で は、分子構造を表わすのにLとL'のうちの大きい方を 採用し、この数値を指数と呼ぶこととした。

発火温度には最低発火温度,おくれ時間2secの温度, および瞬間発火温度を用い,指数とこれらの発火温度 の関係を示したものが Fig.5, Fig.6および Fig.7 であ る。これらの図に見られるように,各物質の測定点は 夫々の曲線の近くに分布し,しかもその曲線はさきの Fig.2~4の曲線とほぼ同位置に存在することが分る。

以上の結果から,上記の規約に基づく指数によって, エステル全体の分子構造を表わすことが,ほぼ妥当で あることがここに明らかになった。

# 4.4 一塩基酸の場合

エステルのうちでもギ酸エステルの系列はL=0であったが、一方においてL'=0の物質は酸がそれに相当 するから、一塩基酸の系列に対してもエステルと同じ 分類として扱えるであろうと予想される。そこで、ギ 酸からステアリン酸に至る酸の系列を検討し、L(指数 も同じ値)と発火温度の関係として Fig.8, Fig.9 およ び Fig.10 に示す結果を得た。

この関係は, さきのエステルについての Fig. 2~4, および Fig. 5~7の関係とよく類似し, しかも両者の曲 線は比較的近い位置に存在している。従って, 分子構 造をこのような方法で表わした場合, 発火温度に関し てはエステルと酸は同一の分類に属し, 後者は前者の



Fig.8 Relation between L of acids and their minimum ignition temperatures. 酸のLと最低発火温度の関係(17物質)





1ケースとして扱えることになる。

なお、両者の発火温度を比較した場合、同一指数に 対して酸の方がエステルより全般にやや高いが、この 事実はさきにエステルを検討した時点で、既にある程 度予見されたことであった。すなわち、L>L'の場合、 発火温度は主にLに支配されるが、Lが同一でもL'が 異なる物質間では、L'の増大につれて発火温度は一般 に僅かづつ低下する傾向があるからである。その数例 を Table 3 に示した。酸はL'=0であるから、一般に メチルエステルよりも更に発火温度がやや高くなる傾



Fig.10 Relation between *L* of acids and their momentary ignition temparatures. 酸の *L* と瞬間発火温度の関係

向を持つのであろう。

# 4.5 エステルおよび酸全般の発火温度

以上の諸結果から、鎖式飽和1価のエステルおよび 酸について、その分子構造をLとL'の大きい方の数値 (指数)で表わすことにより、この数値と発火温度の間 にほぼ一定の逆S字状曲線で示される関係のあること が明らかになった。今回の実測で得た72種のエステル



Fig.11 Relation between index-number of alkyl esters and alkyl acids and their minimum ignition temperatures.

鎖式飽和 | 価のエステルおよび酸の指数と最低発火温 度の関係(89 物質)

-131 -

# 産業安全研究所研究報告 RIIS-RR-86

# Table 3 Effect of variation of L' on ignition temperatures (L=const.) 発火温度に及ぼす L' の変化の影響 (L が一定の場合)

Acid and Ester	Average carbon chain length of R (L)	Average carbon chain length of R' (R')	Index number for showing molecular structure	Minimum ignition temp. (°C)	Temp. of 2 sec time lag (℃)	Momentary ignition temp. (°C)
n-Butyric acid	3.0	0	3.0	445	545	590
Methyl n-butyrate	3.0	1.0	3.0	455	550	600
Ethyl n-butyrate	3.0	2.0	3.0	3.0 440		600
n-Propyl n-butyrate	3.0	3.0	3.0	420	525	585
n-Capronic acid	5.0	0	5.0	330	415	520
Methyl n-Caproate	5.0	1.0	5.0	255	390	480
Ethyl n-Caproate	5.0	2.0	5.0	255	320	400
n-Butyl n-Caproate	5.0	4.0	5.0	240	295	345
n-Capric acid	9.0	0	9.0	230	295	330
Ethyl n-Caprate	9.0	2.0	9.0	220	270	295
n-Butyl n-Caprate	9.0	4.0	9.0	225	270	290
Palmitic acid	15.0	0	15.0	240	285	320
Methyl palmitate	15.0	1.0	15.0	225	275	295
Ethyl palmitate	15.0	2.0	15.0	230	260	280,





鎖式飽和 | 価のエステルおよび酸の指数と発火おくれ
時間 2 sec の温度の関係



Fig.13 Relation between index-number of alkyl esters and alkyl acids and momentary ignition temperatures. 鎖式飽和 I 価のエステルおよび酸の指数と瞬間発火温 度の関係

と 17 種の酸の全体を一つの図にまとめて,上記の関係 を示したものが Fig. 11, Fig. 12 および Fig. 13 である。 これらの図における各物質の測定点の曲線からの偏 倚は, Fig. 11 の最低発火温度では比較的小さいが,さ らに温度が上昇して同じ発火おくれ時間を示す Fig. 12



Fig. 14 Distribution chart of ignition temperatures of alkyl esters and alkyl acids. 鎖式飽和 I 価のエステルおよび酸の発火温度の分布図

および Fig.13 ではやや大きくなっている。しかし,安 全面でとくに重要な最低発火温度が,その発火おくれ 時間は各物質まちまちであるにもかかわらず,ばらつ きの少ない結果を示していることはきわめて好都合で ある。従って,これらの同族体の発火温度未知の物質 の最低発火温度を,この曲線から予測することが可能 であろう。この場合,指数が3.7~5の範囲では,温度 が急激に低下するので,予測性が不良であるが,他の 部分での誤差は±25℃以内である。

なお、曲線からの偏倚が比較的大きい物質は、側鎖 のあるアルキル基を持つ場合であるから、これらの偏 倚を更に小さくする方法として、さきのアルコール類<sup>4)</sup> で行なったのと同様に、平均炭素鎖長に代えて補正平 均炭素鎖長を用いる方法があるが、煩雑になるため、 ここでは省略した。

つぎに,Fig.14 は最低発火温度から瞬間発火温度に 至る各曲線を同一グラフ状に記入したものである。こ の図からは,最低発火温度と瞬間発火温度の温度差が 指数によって変化することなどが分る。要するに,Fig. 14 はこれらの同族体全体の発火温度の概略の温度分布 を示すものとみなせるであろう。

-133 -

- 134 --

#### 5. 結 論

前報<sup>4)</sup>での鎖式飽和1価アルコールについての検討に、 続き、本報では鎖式飽和1価のエステルおよび酸の分 子構造と発火温度の関係を検討した結果、次の事実が 明らかになった。

1) 鎖式飽和化合物では,一般に炭化水素基の平均 炭素鎖長の増大につれて発火温度は低下するが,エス テル(R-COO-R')のようにRとR'の2個の炭化水素 基を持つ物質では,それらの平均炭素鎖長の大きい方 が支配的に作用することが明らかになった。この場合, 大きい方の平均炭素鎖長を指数と呼び,この数値でエ ステルの分子構造を表わせば,指数と発火温度の間に Fig.11~13に見られるような逆S字状曲線の関係が認 められる。

2) 酸 (R-COO-H) の場合は炭化水素基が1 個であ るが,エステルの場合の特例として,ほぼ同様な扱い ができることが明らかになり,その関係も Fig.11~13 中に示した。これらの関係の利用によって,エステル および酸の同族体の未知発火温度のおおよその予測が 可能であろう。

#### (昭和62年1月22日受理)

#### 参考文献

- M.G.Zabetakis, A.L.Furno, G.W.Jones: Ind. Eng. Chem., 46, 2173 (1954)
- 2) たとえばL.C.Gibbons, H.C.Barnett: Ind. Eng. Chem., 46, 2150 (1954)
- M.G.Zabetakis: "Flammability Characteristics of Combustible Gases and Vapors" U.S. Bur. Mines, Bull. 627, p.64 (1965)
- 4) 柳生昭三: 有機化合物の発火温度の体系価についての研究(第1報),産業安全研究所研究報告, RIIS -RR-26-5 (1978)
- 5) 柳生昭三:発火温度データ(第1集),産業安全研 究所技術資料, RIIS-TN-75-3 (1975)